

# 森林・林業・木材産業

## アナリスト

### ■ジャパンフォレスト 2050

地元群馬県に帰るたびに製材所がなくなったり、山村に元気がなくなったりということを目の当たりにし、森林・林業が環境や社会、地域経済等に与えている役割・機能の大切さから、「今、何か出来ることはないだろうか」という想いを持つていました。

そのような中、デロイト トーマツ内の同様の考えを持つ有志メンバーらとともに、令和3年度には日本の森林・林業の未来を描く「ジャパンフォレスト2050」という取組を立ち上げ、環境、経済、地方の視点から森林・林業の振興を推進しています。

### ■森林・木材産業の再生と日本の発展

森林・林業・木材産業は多くの問題を抱えています。それらを解決することで、多くの社会課題の解決につながるきっかけが作れるのではないかと思います。

この森林・林業・木材産業がこ

の先、持続可能な産業であり続けるためには、次世代を担う人材の育成や情報化などへ先行投資を可能とする受け入れ体制が必要だと感じています。

木に関わる多くの仕事は都市部ではできません。日本国内でも、それぞれの特徴を持つ地方が適材適所で多様な力を遺憾なく発揮していくことが日本の発展には不可欠です。また、過度に首都圏に集中した日本の人口のバランス、人口減少問題を始め、都市や地方、多様な人材が自発的に交わることによる地域の好循環、その

結果として都市と地域の新たな関係、秩序や構造が生み出されるものと思います。

### ■暮らしの中の森林

人類のこれまでの長い歴史を振り返れば、森林はいつも人々の生活の中に存在しており、私たちは森林の持つ価値によって生かされていると感じます。今の生活に重ねてみれば、自然の景観は心身の満足度を高め、衣・食・住や多くの産業とも大きな関わりを持っています。世界の中でも日本は、自然が豊かで人々の生活もそこに調和してきた稀有な国です。世界中の人たちが、いつか日本に行ってみたい、暮らしてみたい、そう思ってもらえるような社会に向かって行ければと思います。白鷹町はそのような潜在力が高いので、世界中の人たちが、「迎え入

れられている」と感じてくれるような温もりのある森林と林業の町であり続けて欲しいと願っています。

### ■みんなが幸せな社会実現に向けて

「林業」という長い営みは、一人が植えて育てた木を伐り、次世代のために植え育てる「ものです。他利の精神(贈与経済)で次の世代に引き継いでいくことで自己の利益に報いるという素晴らしい精神に貫かれた産業のひとつだと思っています。

人の生活の基盤となっている森林・林業・木材産業の課題を解決することは社会の重要な課題解決につながるはずですし、サステナブル(持続可能)でウェルビーイング(みんなが幸せ)な社会実現のためには、トリガー(きっかけ)のひとつになるものと思っています。



きたづめ まさひこ  
北爪 雅彦 さん

デロイトトーマツ グループ パートナー  
群馬県勢多郡宮城村(現:群馬県前橋市)出身  
東京都三鷹市在住

総合電機メーカーにて衛星通信システムの開発に技術者として従事した後、公認会計士試験に合格。有限責任監査法人トーマツ入社後は、監査業務やM&A アドバイザリー業務を多数手がけ、現在はデロイト トーマツ リスクアドバイザーにて新規事業や、林業を取り巻く諸課題の解決支援を推進。

### 【デロイト トーマツ グループ 所在: 東京都千代田区丸の内】

監査・保証業務、リスクアドバイザー、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザー、税務・法務等の分野を包有する日本最大級の総合プロフェッショナルファーム。1968年に設立された日本初の全国規模の監査法人を起源とし、「真に国際的に通用するプロフェッショナルファームを作る」という強い信念のもとに、世界的なプロフェッショナルネットワークであるデロイトに主要メンバーとして加わり、日本の資本市場の信頼性確保に努めるとともに、高度化するクライアントのニーズと社会の要請に込めている。令和5年4月に林業の振興と地域の活性化に向け、白鷹町と連携協定を締結。

### ■デロイト トーマツ グループとは

デロイト トーマツ グループのトーマツは、監査法人トーマツの創業者のひとりである、等松農夫蔵(とうまつのぶざう)の名前に由来します。海軍の主計少将だった等松は、戦後、公認会計士となり、その直後から日本企業の世界展開を見越し、自分たちがそれを支える組織となることを目指して、日本初の監査法人を日本人だけの手で作り上げました。今では、「デロイト・トウシュ・トーマツ」として、トーマツの名が国際的会計事務所の名称に組み込まれますが、これは欧米の会計事務所と対等の立場で提携するという先人の夢を実現するための汗と涙の結晶だと思っています。

# もり 森林と共に

## ■白鷹町との縁

平成27年、東北森林管理局次長の時に白鷹町が中央公民館・役場庁舎を木造にするという情報が入り、佐藤町長と面談したのが初めてでした。その時、山を見た印象としては地形的にも林業がしやすいそうだし、東京・仙台をマーケットとした流通も悪くないと感じた覚えがあります。その当時は想像していませんでしたが、町の木材で地域の人が作った「白鷹町まちづくり複合施設」が完成し、物林㈱に入社して白鷹町と一緒に仕事をすると、何かの縁なのかもしれません。

## ■「育てる」林業から「使う」林業に

現在の日本中の森林は、長らく続いた木材価格の低迷で主伐期に達した人工林が多いこと、林業の低迷により次の世代に向けた造林が行われていない状況となっています。これは、白鷹町の森林も同じです。経済的な視点も変化しています。以前は、木は太い方が高く売れましたが、現在では大型工場の機械で製材できる寸法が概ね



おおぬき はじめ  
大貫 肇 さん

栃木県今市市（現日光市）出身  
神奈川県藤沢市在住  
物林株式会社 新事業推進部長（R元. 7～）  
おきたま林業㈱ 取締役（R4. 4～）

実家は国産材を専門とした製材所。幼少期より木に囲まれて生活する。東京農業大学林学科卒業。昭和57年4月林野庁入庁。林野庁本庁をはじめ、北は秋田、南は熊本まで全国の山を見て歩き、合計20数回の異動を経て、東北森林管理局次長、国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林保険センター所長などを歴任し退官。これまでも、林業・木材産業に関わる数多くの論文を発表し、現在も日本各地で講演を行うなど、日本林業の第一人者として活躍中。現在は、業務と並行して筑波大学大学院博士課程に在学し、林業・木材産業の研究を行う。

## ■未来のために

直径32センチ以下であることなどから、適度な太さの木が高値で取引されています。つまり、新しく植林を行わず、偏った樹齢の森林の状態は「少子高齢化、メタボ化が進んでいる」という見方もできると思います。

そのため、これまでの間伐主体の林業ではなく、主伐・再造林を行い、地域の振興とともに次の世代のために再造林を行うことが重要ではないかと思えます。

ただ、さまざまな事情があると思います。国内の多くの林業地では補助金を活用した間伐を繰り返しているのがみられます。十分成長した木があり、「育てる」林業から「使う」林業に時代が流れている今、主伐・再造林を主とする林業を白鷹町で実践し、地域をけん引していきたいと思えます。

## ■私たちの役割

要です。

「先人たちが育ててくれた木がありがたく収穫させていた。次世代につないでいく」。これこそが今林業に携わる私たちの役割です。また、林業は地方でしかできない産業です。地域でいかにつなげるかが重要であり、そのため何ができるか、技術的、経済的、地域という視点でこれからの森林・林業を考えて、白鷹町を舞台に実践していきたいです。そして、山形県の林業をけん引し、日本最先端の林業地としての白鷹町にしていきたいと思っています。